

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果と考察、ならびに今後の本校のとりくみについて

4月17日（木）に全国の中学生3年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果について、本校の概要や今後の取組をお知らせします。

丹波市立柏原中学校

学力調査の結果と考察

【国語】…全国の平均正答率と同程度

- 成果 目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にできるかを見る問題は全国と比べて正答率が高い（全国+8.5）。授業のふりかえり場面での文章の要約など作文課題を数多く設定することが、根拠を明確に表現することにつながっている。
- 課題 資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる問題（全国-11.1）など、表現の効果を考えて自分の考えが伝わるように文章を工夫することに課題が見られた

【数学】…全国の平均正答率よりやや低い

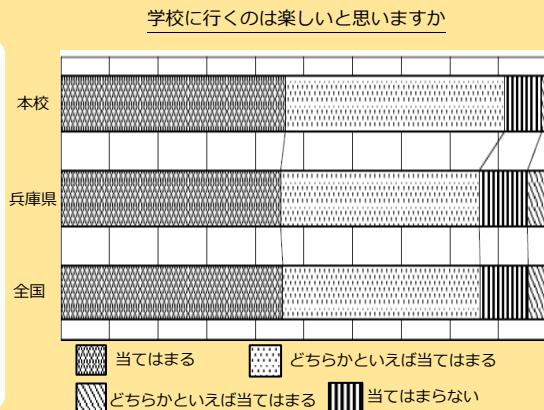
- 成果 関数の思考力を測る記述問題は全国と比べて正答率が高い（全国+5.8）。授業内で、自分の考えを説明する機会を増やし、レポートの課題で自分の解き方を人に伝わるように記述する練習を重ねた成果だと考えられる。
- 課題 1～9の中から素数をすべて選ぶ問題や、度数分布表から相対度数をもとめる問題、証明問題などで課題が見られた。素数や相対度数などの数学用語の意味が理解できていないこと、証明問題に必要な条件が覚えられていないうことが原因と考えられる。

【理科】…全国の平均正答率と同程度

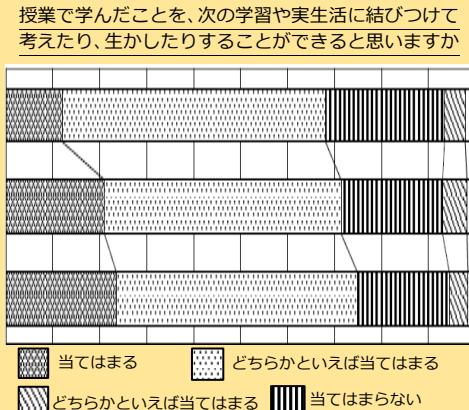
- 成果 科学的探究のまとめを他者が発表する場面で、探究から生じた新たな疑問や振り返りを表現できるかどうかをみる問題では全国と比べて正答率が高い（全国+7）。身近な生活との関連に着目した振り返りなどにより適切な表現力が身についているものと考えられる。
- 課題 電流・電圧と電気抵抗や熱量に関する問題や茎の断面および根の構造から植物を分類する問題の正答率が低い。単元および学習内容の中で苦手意識を持つものがあり、知識・技能に偏りがあると考えられる。

質問紙調査の結果より

【成果】「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の問いに、肯定的回答は97.8%（全国+5.6）であった。また、「自分には、よいところがあると思いますか」の問いに、肯定的回答は、88.0%（全国+1.8）であった。このように自己有用感を示す指標はいずれも高い。そして「学校にいくのは楽しいと思いますか」の問いに、肯定的回答は91.3%（全国+5.2）であり、前向きに充実した学校生活を送ることのできる生徒が多くいることが考えられる。ただし、「楽しくない」などの否定的な回答をしている生徒がいることも忘れず、きめ細やかに生徒の学校生活を支援していく必要がある。



【課題】「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか」の問いに肯定的な回答は68.1%（全国-6.7）であった。また、「学校の授業以外に、普段（平日）、1日当たりどれくらいの時間勉強しますか」の問いに、「2時間以上」と答えたのは13.2%（全国-17.6）であった。授業での学習に留まらず、実生活に視野を広げ学習の意義を見出しが難しく、計画を立てるなどして主体的に家庭学習に取り組もうとする意欲が低い生徒が多い。これは昨年度と同様の傾向で、家庭学習の習慣の定着が望まれる。また「将来の夢や目標を持っていますか」の問いに肯定的な回答は57.2%（全国-10.3）であった。将来の夢や目標をもって、主体的に学習する力を育みたい。



今後の本校のとりくみについて

- 国語科においては、自身の考えを主張する力を育成するため、考えをアウトプットする機会をつくり、授業内で作文などの表現活動の場面をより積極的に設定する。
- 数学的分野の基礎知識の定着のため、ICTなどを活用しながら反復練習する習慣を身に付けさせる。また、数学用語の意味を確認する機会を意図的に設けるなど知識の定着を図る工夫をする。
- 理科分野における知識・技能の定着に留まらず、学習事項（知識・考え方など）を日常生活で活用したり、技術革新との関連などをとり上げ、興味を深めさせたりしながらその知識・技能を将来役立てたいと考える生徒の育成に努める。
- 生徒が主体的に学び合う授業を推進するため、さまざまな場面でペアトークや小グループ学習の機会を設け、伝え合い、話し合ったうえで、それをまとめ表現できる能力を高める。また、自分の言葉で説明する場面を意図的に設定し、論理的に説明できる（アウトプット）能力を高める。
- 授業のユニークデザイン化を継続することで、生徒全員が参加できる授業づくりを推進する。
- すべての授業において、授業の始めの「めあて」の提示、授業終盤での「ふりかえり」を大切にすることで、見通しを持って学習に取り組めるようにする。
- 生徒ができないときのアドバイスだけでなく、頑張っている過程やできたときに褒める「評価言」をタイミングよく、分かりやすく生徒に伝える。
- 効果的にICT機器を活用した授業実践をすすめ、授業内での活用場面を通じて、ICTの有用性を実感する場面を設定する。
- 家庭学習の定着を目指し、自ら計画を立てて復習や問題演習などに取り組めるように意識を高める。
- 家庭学習を充実させるため、選択課題やICTを活用するなど、各生徒に合った学びを工夫する。
- 夢や目標を持って努力できる、自走する学習者の育成を目指し、キャリア教育を通じて自己肯定感や自己有用感の醸成を図る。



『こころ豊かで、自立する生徒の育成』
～楽しく学び合い、笑顔で支え合い
元気に鍛え合う柏中生～